



「通いの場」通信

Vol.22

令和3年3月31日発行



支え合いのまちづくり地区フォーラム

『△(参画)は○(えん)になる』が開催されました



厚生労働省 吉田昌司先生

今回の地区フォーラムは、厚生労働省の吉田昌司先生を講師にお迎えし、「地域共生社会」をテーマに開催されました。

「地域共生社会」とは、制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会です。

ひきこもりやダブルケア等の当事者数の増加といった社会環境の変化や社会参加することによる認知症予防効果が確認されたデータ等から地域で支え合う体制づくりの必要性を話され、全国での取り組みの事例等を紹介されました。

実践発表

今回の実践発表では、様々な支援者・応援者から寄せられた食材や日用雑貨が、より身近なご近所の困りごとや発見・相談・支援に活かされる「互近助パントリープロジェクト」の取り組みも踏まえて発表されました。

広江地区フードシェア会

広江地区も高齢化や地区の後継者不足等の問題を抱えていますが、サロン活動も活発で住民同士のつながりの強い地区です。水島地区担当コーディネーターから互近助パントリーの相談をさせていただくと、大変熱心に取り組みられ、住民自身が提供先を開拓され、集まった食材を必要とされる方に広く配るフードシェア会を開催しました。地域のつながりがより強くなったのを感じますが、これからも無理せず続けていきます。



みずえ地域相談支援事業所 ちいろば

水江地区に昨年開所した障がい者相談支援事業所です。障がい者も健常者も垣根なく、誰もが集える拠点を目指しており、まるで水江の秘密基地のように、近隣の住民も訪ねてきています。特に毎週火曜日は「たけちゃん珈琲」を開き、隣の公園に集まっている親子をはじめ、大勢の方が遊びに来て、相談にもつながっています。こちらも互近助パントリーサポーターとして、地域のつながり作りに活用してもらっています。



(児島会場の様子)

新型コロナ感染の予防対策をとって開催しましたが、初めての試みとして倉敷会場でのフォーラムの様子を市内3ヶ所のサテライト会場や希望者へライブ配信を行いました。

また、当日の様子はYouTubeでご視聴いただけます。「さんかくはえんになる」で検索してください。

<https://www.youtube.com/watch?v=jKevM4hCiRU>



アンケート

フォーラム参加者のアンケート結果の一部を紹介します。

- ・制度、分野ごとの縦割りでは解決は難しい。又、支える側、支えられる側ではなく、お互いが得意な分野で支えあう大切さをあらためて、数字や実例で教えて頂いてよかったです。
- ・互近助パントリープロジェクトに興味を持ちました。実際に活動されているので現実味があり、取り組みやすいのかなと感じました。さまざまな取り組みに感動です☆
- ・相談支援事業所とのコラボも限りない可能性があって楽しみです。

地域共生ガイドブック 「△（参画）は ○（えん）になる」

完成
しました

被災地支え合い事例集 「豪雨二モマケズ第2版」

地域で暮らしていくうえでの様々な課題に対し、住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超え、縁（関係）となり、円（連携）となり、援（支援）となり生まれた「共に生きる（地域共生）」の活動が広まっています。

この「地域共生ガイドブック『△（参画）は○（えん）になる』」は、そのような地域共生の取組や地域で活躍する支援者、相談機関等を紹介する情報をまとめた冊子です。

平成30年7月の夏から3年。発災当初から被災者の大きな支えとなったのは、地域が大切に育ててきた絆や文化を活かした「人と人とのつながり」や「お互いさまの支え合い」でした。

この「被災地発支え合い活動事例集『豪雨二モマケズ第二版』」は、地域や住民、支援者のこれまでの取り組みと、これからに向けた思いを紹介した冊子です。



就労支援
（「世界一やさしいレストラン」NPO法人まこと）



困りごと支援
（「ちょいサボ！」就労移動支援事業所irodoro）



箭田・合同防災訓練の
受付を手伝う中学生



玉島長尾・ほっと笑待会
（みなし仮設住宅で生活を
送る人の交流の場）

地域共生ガイドブック「△は○になる」、被災地支え合い事例集「豪雨二モマケズ第2版」 配布場所

- ①倉敷市社協・地域福祉課と各事務所
- ②倉敷市役所健康長寿課
- ③倉敷市社協のホームページから電子版のダウンロードが可能です。

URL <http://kurashikisyakyo.or.jp/>

【お問い合わせ】倉敷市社会福祉協議会 地域福祉課 TEL：086-434-3301



保健・福祉のボランティア活動に助成します

倉敷市では、地域福祉基金からボランティア団体やNPO法人が行う保健・福祉に関わる
新規の事業活動（高齢者・障がい者・子育て中の親子などを対象とする事業）を広く支援助成します。

- 助成期間 3年以内
助成限度額 1年目 100,000円 2年目 75,000円 3年目 50,000円
受付期間 令和3年4月1日（木）～5月31日（月）
対象になる事業の例（新規事業の開始から1年以内のもの）
○ボランティア講習会や研修会 ○地域でのボランティア活動の組織づくり
○介護教室の開催 ○子育て支援の集い ○外出支援 など

【申請・お問い合わせ先】

倉敷市保健福祉局保健福祉推進課 TEL：(086)426-3303 FAX：(086)421-4411
<https://www.city.kurashiki.okayama.jp/tiikifukusikikin/>

生活支援コーディネーターも
新しい交流や支え合いの仕組み
づくりをお手伝いします。
お気軽にご相談ください。

